

## 第 3 回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

### (1) 目指すまちの姿について

< 論点 >

1. 目指すまちの姿について

# 1 ワークショップ実施結果(速報)

## 本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちづくりを考えるワークショップの実施結果(速報)

■第1回 10/23(土)13:30~16:30 @厚木市役所第2庁舎16階会議室

17名参加

### 開催背景等の共有、「歩いて楽しい」を考えてみる

STEP1 歩いて楽しいまちとは

STEP2 本厚木駅周辺の印象

【講演】まちづくりの歴史と本厚木のまちの構造について(東京工芸大学 教授 八尾 廣氏)

#### ○主な意見-歩いて楽しいまちとは

- ・街を歩く目的は、買物や食事、街並みを楽しむこと。
- ・歩いて楽しい瞬間は、生活が垣間見えたり、穴場を見つけるような『発見』の瞬間。
- ・コロナが明けにやりたいことは、人と集まって交流することや出かけること。

#### ○主な意見-本厚木駅周辺の印象

- ・川が近く、自然や公園が近くにあるところが好き。
- ・『発見』につながる数多くの魅力(美味しい飲食店等)が点在している。通りごとに特徴があり、歩いてみないと分からない楽しさがある。
- ・女性が入りやすいお店がない。
- ・ゆったりできる場所が少ない。歴史を有する川沿いを有効活用したい。
- ・小さな公園が活かされていない。
- ・治安が悪いイメージを改善したい。
- ・ポイ捨てや喫煙などで雰囲気の良い場所がある。

■第2回 11/27(土)10:30~16:00 @厚木市役所第2庁舎16階会議室

15名参加

### 実際にまちを歩いて体験してみる

STEP1 まち歩き

STEP2 まち歩きで分かったまちの印象

【講演】エリアマネジメント事例紹介(小田急電鉄株)エリア事業創造部 課長 西村 靖生氏)

#### ○主な意見-まち歩きで分かったまちの印象

- ・まち歩きの途中にちょっと休憩したり、食べ歩きを楽しむような場所が少ない。公園や相模川での活動や景色などを楽しむとより良い。
- ・歩いている時に軒先の植栽や生き物などを発見すると和んで、心地良かった。
- ・北口の駅前広場は、殺風景である。イベント等の実施ルールを作るなどして、人が滞留しやすい温かみのある空間にしたい。

- ・大型の商業施設は少ない。小さな飲食店や商店がたくさんある駅前をしたい。
- ・公園には、体操やヨガ、日向ぼっこを楽しんだり、子どもが裸足で走り回れる芝生広場があると良い。
- ・一番街通りの路面がインターロッキング舗装で歩きにくかった。
- ・地下道は階段が狭く急なため、子どもやお年寄りには使いにくい。
- ・駅から川までまっすぐな道がなくても、しっかりとした案内サインがあれば川が身近になる。

# 1 ワークショップ実施結果(速報)

## 本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちづくりを考えるワークショップの実施結果(速報)

■第3回 12/19(日)13:30~16:00 @厚木市役所第2庁舎16階会議室

12名参加

歩いて楽しいまちづくりに必要なモノ/重要なモノ、したいコト/できるコトの取りまとめ

STEP1 モノコトカードワーキング

【講演】皆さんの力で「歩いて楽しいまち」をつくりましょう！(東海大学 教授 梶田 佳孝氏)

### 1班+2班

#### 厚木のまちに目的地を作る※

- ✓ 写真を撮りたくなる場所や滞在できる場所が必要  
例) 並木、イルミネーション、駅前広場の公園化、市役所跡地への大学誘致等
- ✓ 若い世代の呼び込みが重要
- ✓ 駅前の道路は歩行者と自動車の空間を分離して歩きやすさUP
- ✓ 誰もがまちづくりに参加できるように負担にならない範囲で市独自の税制導入  
例) 横浜市の「横浜みどり税」

### 3班

#### まちの目的の明確化※

- ✓ 各通りの個性を明確にすることが必要
- ✓ 日常的な商業活動を支えるため、一番街通りにテラスやゴミ箱、ベンチを設置
- ✓ 小田急線高架下に、神社や相模川までのアクセス動線確保
- ✓ まち全体が繋がるランニングやウォーキングコースの設定
- ✓ 道路や建物の異常報告を市民が行いたくなるインセンティブの付与

### 4班

#### 情報発信したくなるようなまち※

- ✓ 一番街通り周辺をキッチンカーの出店や食べ歩きできるような歩行者優先のエリアへ  
例) 駅前広場や駐車場の芝生広場化、休憩施設の設置、歩行者専用道路の指定等
- ✓ 複合施設周辺に、大山の眺望スペースや歩行者広場の設置
- ✓ バスセンターへの休憩施設設置
- ✓ 市民が休憩施設のデザイン検討、道路や建物の異常報告、お試し店舗出店、SNSで魅力発信を実施

※本厚木駅周辺が今より、もっと「歩いて楽しいまち」になるための取りまとめテーマ



本厚木駅周辺は歩きたくなるようなまちになっていない。(=まちの弱み(第2回会議提示))  
⇒写真を撮ったり、情報発信したくなる目的地を増やし、歩行者目線でミチを繋ぐことが重要

## 2 委員意見への対応

### 第2回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議【令和3年11月8日開催】

#### (1) まちのポテンシャルについて

意見概要	対応
本厚木駅が大山と相模川の大自然に囲まれていることを認識すると、まちの印象が変わるため、そういった厚木の自然的資源や魅力をまちなかで感じられる場があると良い。	追加 (P5)
まちに歴史があることもポテンシャルや強みとして考えるべきではないか。宿場町や芸者のいた名残、相模川の渡しや宿場町など、市民の方にも歴史があることを理解いただいた方が良い。これはまちに対する愛着にもつながる。	追加 (P6)
コロナを経て、商業やまちなか居住、ライフスタイルの在り方はかなり変化してきており、 <u>ニューノーマルを見据えた計画づくりを意識すべきである。将来どうなるかは誰にも分からないが、そうした視点での議論が本会議の委員にも求められる。</u> 社会状況を反映できるように、事務局には可能な限り、専門家の知見などを集めていただきたい。	追加 (P7)

#### (2) 目指すまちの姿について

意見概要	対応
<u>目指すまちの姿に、人がどのように過ごしたら楽しいかという視点が入っていない。</u> 場所に人が合わせるのではなく、人がしたいことに場所を合わせていく必要がある。	目指す まちの姿 修正 (P11~12)
目指すまちの姿のイメージを見ると、2つの交通結節点と厚木中央公園の3つを結んでいるように見えるが、ゾーニングでは厚木中央公園の位置付けが分かりにくい。 <u>厚木中央公園は重要な資源であるため、役割をきちんと持たせた方が良い。厚木中央公園や交通結節点をつなぐネットワークとしての道についても、公園の位置付けを検討した上で議論すべきである。</u>	
<u>支え合いの場が、他のエリアに比べて、象徴的なものがないため、ストーリーやシーンが見えてこない。</u> 支え合いの場に厚木中央公園を取り入れるなどすれば、自転車や自動車利用者の重要な場になるかもしれない。支え合いの場を歩く人や利用する人が誰なのか見据えた上で、もう少し位置付けが明確になると良い。 目指すまちの姿のイメージで結ばれているサブネットワークとまちの回廊が異なる印象を受ける。サブネットワークが、どの路線であるべきか改めて検討していただきたい。 <u>サブネットワークはどこを結ぶための動線なのかしっかり議論しておきたい。</u>	

※その他の御意見については、提言書(案)に反映

# 本厚木駅周辺の特徴 地形

## ■ 3D表示で見た厚木市主要部の地形



大山の風景

変化に富んだ本市の地形



相模川の風景

出典：地理院地図 3D（国土地理院HP）に地名等を加筆 ※高さ方向を強調しています。

出典：厚木市都市計画マスタープラン

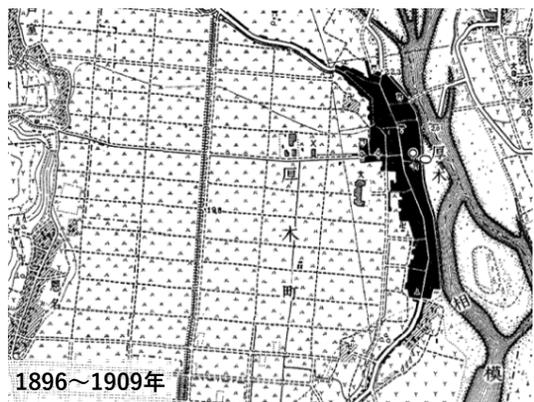
⇒北西に丹沢山地、東に相模川が位置し、本厚木駅を中心とした扇状の地形が広がる。

## 幕末～大正

### 人・物が行き交う 「小江戸」として発展

〔主な出来事〕

- ・愛甲郡役所設置（明治11年）
- ・相模橋の開通で、渡船場（厚木の渡し）廃止（明治41年）
- ・繭糸取引所設立（大正11年）

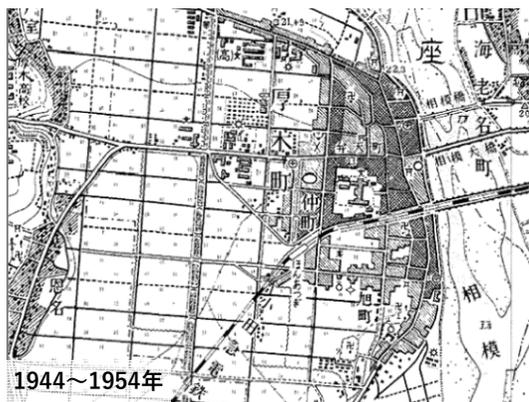


## 昭和初期～中期

### 小田急小田原線開通による 基盤整備の始まり

〔主な出来事〕

- ・第1回鮎まつり（昭和22年）
- ・町村合併で厚木市誕生（昭和30～31年）
- ・相模大橋開通（昭和30年）
- ・本厚木駅北口周辺の土地区画整理事業（昭和30～35年）



## 昭和中期～平成初期

### 現在の都市基盤が形成

〔主な出来事〕

- ・都市計画の線引き（昭和45年）
- ・本厚木駅南口周辺の土地区画整理事業（昭和40～56年）
- ・本厚木駅高架事業（昭和52年）
- ・市街地再開発事業（昭和56年～）



## 平成中期～令和

### 歩いて楽しいまちづくり

〔主な出来事〕

- ・都市再生緊急整備地域指定（平成16年）
- ・本厚木駅南口地区市街地再開発事業（令和3年）
- ・商店街や小田急電鉄等がジャズナイト、ハロウィーン等のイベント開催



⇒人が集まる交流拠点は相模川周辺から駅周辺へと転換してきた。

## 都市再生有識者懇談会の見解（事務局：内閣府地方創生推進事務局）

### 『新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした今後の都市再生のあり方（令和3年6月）』

令和2年12月から令和3年6月まで計7回にわたり、新型コロナウイルス感染症の拡大による都市への影響や働き方・住まい方等の変化とあわせて、今後予想される自動運転等の未来技術の進展を踏まえた都市再生等について、最新の状況やこれら変化への対応について議論を行い、都市のあり方や都市再生の取組の方向性についてとりまとめを行った。

#### 働き方の変化とテレワークの進展

- 感染症による働き方の変化  
⇒ 生活の質（QOL）の向上を求め、**多様な「働き方」**が広がる兆し。
- テレワークの進展による働く場所の変化  
⇒ 東京圏を中心に在宅勤務が増加し、広く、働きやすい環境を求め、東京圏郊外への移住ニーズが高まるなど、**働く場所の選択肢が拡大**。
- 働く場所の役割と地方都市への影響  
⇒ オフィスのハイブリッド戦略※1を採用する企業が増加。また、「**転職なき移住**」が可能となり、テレワークが**地方都市**に与える影響を注視。

※1 オフィスはコミュニケーションで価値を創造する場、自宅等は作業や考える場とする戦略

#### デジタル化の進展

- デジタルの進展と不動産への影響  
⇒ eコマース、手続きやイベントのオンライン化の加速、対面サービスの縮小など**商業・遊興施設のあり方**に影響。
- 都市活動のデータ分析の進展  
⇒ 都市再生の計画や運営に人流や消費活動のリアルタイム分析の活用が期待。
- 未来技術がもたらす都市の変化  
⇒ 実証実験等を通じたテクノロジーの進展やサービスの多様化で、道路や駐車場、交通結節点など**都市構造**が変化すると予想。

#### 脱炭素社会の実現に向けた取組の加速

- 脱炭素社会の実現に向けた動き ⇒ 脱炭素社会の実現のための積極的な対応が世界的な潮流であり、官民を挙げての取組が加速化。
- 都市における脱炭素に向けた取組 ⇒ 都市のコンパクト化やテレワークの効果的な活用、再生可能エネルギーの活用が必要。
- 都市におけるグリーンインフラの活用 ⇒ グリーンインフラ※2の推進で環境に高い関心を有する人材、企業、民間投資の都市への呼び込みが期待。

※2 ハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用

## 今後の都市再生のあり方

### 【都市の意義】

- 人、モノ、情報が集まり、各種サービスの生産性の維持向上、出会いや交流、イノベーション創出の場。【集積】
- オンライン会議やバーチャルな体験、eコマース等が広がったことで、オンラインを活用したリアルな活動の補完や代替が可能。
- 一方、リアルな体験の価値も再認識されており、リアルとバーチャルの融合を考えながら、人中心でゆとりある空間づくりが必要。

### 【都市再生の方向性】

- ・働き方の変化を見据えた**職住近接**や**職住学遊近接**
- ・社会や経済の様々な変化に対応できる**柔軟性・可変性の確保**
- ・**エリアマネジメント**による都市の持続的な更新
- ・東京圏一極集中を是正する**分散型の国土構造**

⇒働き方・住まい方等が急速に多様化・複雑化しており、**官民連携による「都市の特性」**に応じた柔軟性のあるまちづくりが求められている。

#### まちづくりに求められていること

- ✓ 本厚木駅周辺では複数のエリアで都市機能や都市基盤の更新を控えており、**官民一体で歩いて楽しいまちづくりを推進する好機**を迎えている。
- ✓ まちなかのにぎわいや魅力向上につながる空間の利活用を図る取組が活発化しており、ライフスタイルの変化に対応したまちづくりが求められている。

#### 本厚木駅周辺のポテンシャル

- ✓ **歩行者中心のまちづくりの資源**がある一方で、**歩きたくなる環境**が不足している。

〈歩行者中心のまちづくりの資源〉

都市公園、都市機能等の更新、一般車進入規制、2つの交通結節点、昼夜間人口比率等

〈歩きたくなる環境〉

ランドマーク、休憩施設、路上駐停車対策、日常的な仕掛け等

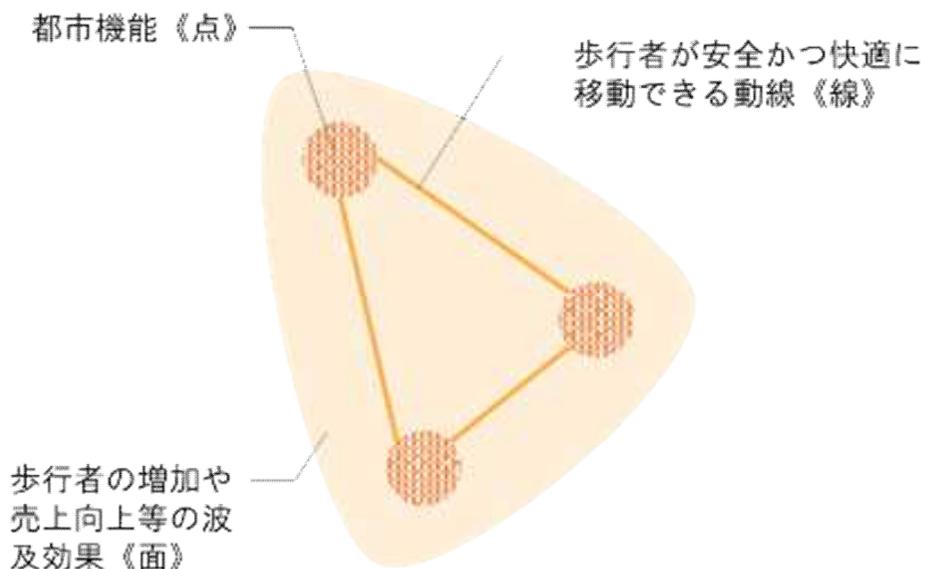
本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちには、  
『官民連携』・『歩きやすさ』・『歩くきっかけ』が必要

#### 目指すまちの姿の考え方

①施設単位ではなく、官民一体でエリアごとの強みを活かして、まちに人を引き寄せる。

②まちを訪れる人（歩行者）が歩きやすく・歩きたくなる空間で施設や空間をつなぐ。

③まち全体で、にぎわいや魅力向上を享受する。

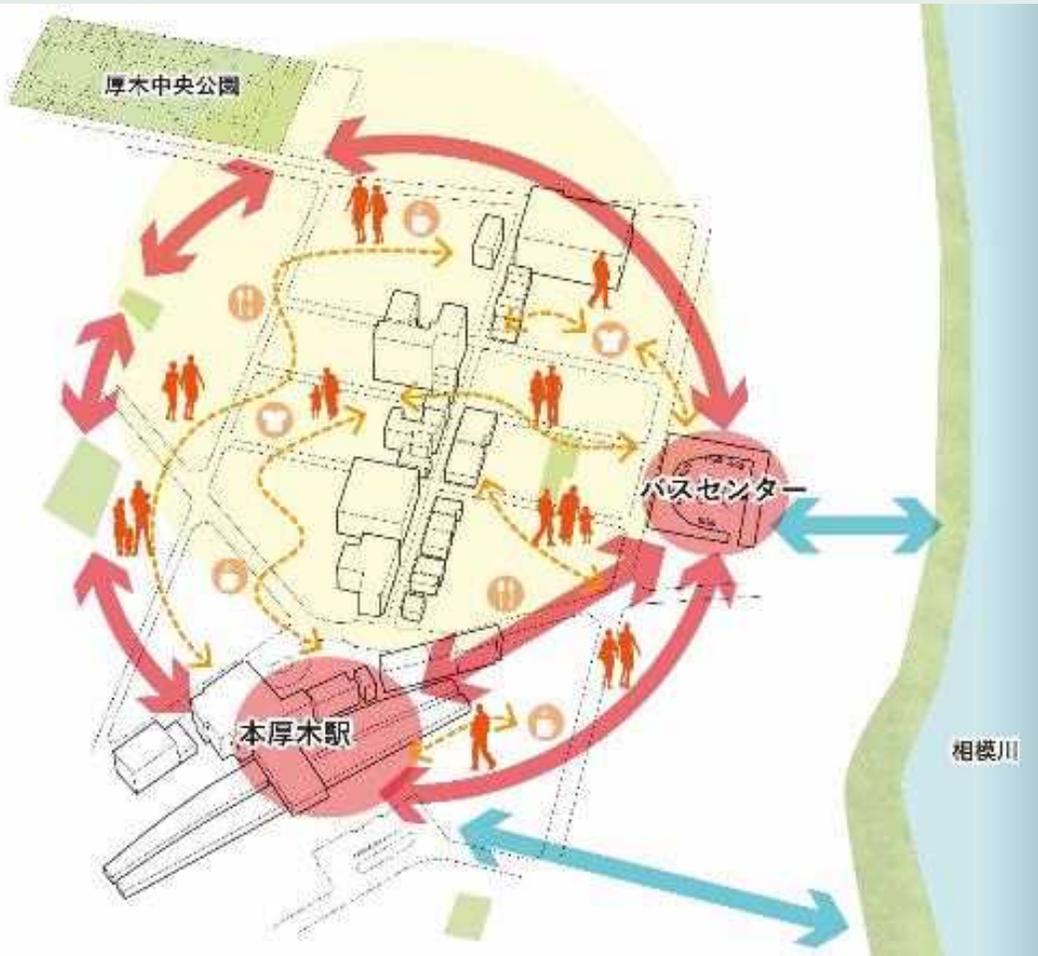


### 3 目指すまちの姿（案）

## 2つの結節点から拡がり、豊かな日常の光景が点在する「歩いて楽しいまち」

本厚木駅と厚木バスセンターの2つの結節点はまちなかを歩くきっかけとなる重要な拠点である。それらと一番街通りを始めとする商業施設や公共空間を結ぶ歩行者動線の充実、さらには通勤や通学、移動の途中などにもつい立ち寄りたくなる仕掛けなどによって、乗換動線だけでない豊かな日常の光景が点在する“歩いて楽しいまち”を目指す。

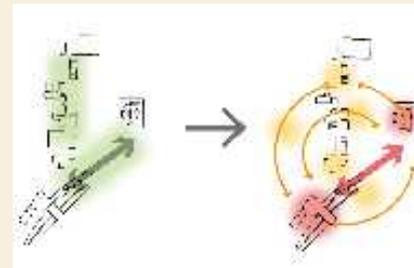
#### 目指すまちの姿（案）のイメージ ～回遊エリアと周辺資源を結ぶネットワークの形成～



#### 歩いて楽しいまちづくりの展開

##### ■まちなかの目的地を増やし、乗換動線から回遊動線へ

民間のアイデアと行動力を活かした公共空間の利活用や施設の充実で、魅力的な場所が増え、まち歩きの範囲が広がり始める。

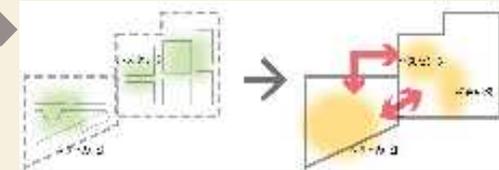


乗換中心の歩行動線

まちなかの回遊動線

##### ■都市基盤の再整備で歩行者空間が生まれ変わる

結節点周辺のリニューアルで、駅周辺が歩行者目線の都市空間に生まれ変わる。

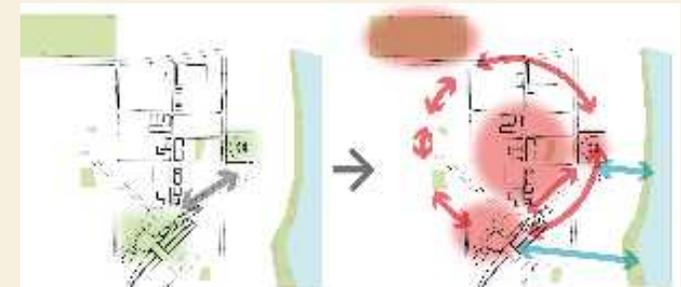


施設の老朽化や歩行者空間の不足

リニューアルで、歩行者目線の都市空間へ

##### ■点在するまちの資源がつながり、歩いて楽しいまちへ

まち歩きの目的地となる大小様々なまちの資源（魅力や発見など）が歩行者目線でつながることで、歩いて楽しいまちとなる。



点在するまちの資源

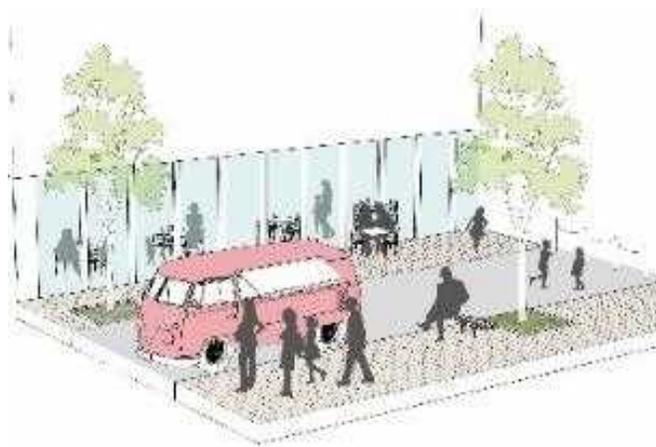
まちの資源がつながり歩いて楽しいまちへ

### 3 目指すまちの姿（案）

## 目指すまちの姿を実現するための3つの方針

### 方針1 歩きやすい空間づくり

人が集まる施設や空間を歩行者中心の空間でつなぎ、その周辺ににぎわいを生み出すと共に、災害時にも安全に移動できる空間を形成する。



〈例〉建物空地の活用

### 方針2 まち歩きのきっかけづくり

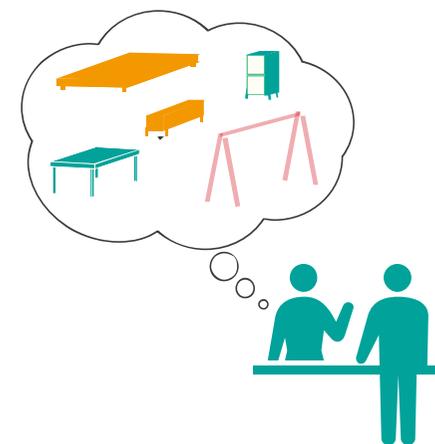
民間事業者等に既存ストックであるオープンスペースの利活用を促し、まちを訪れた人たちが思い思いの時間を過ごしたり、まちを訪れるきっかけを作り出す。



〈例〉都市公園等のストック活用

### 方針3 自分ごとでまちを育む

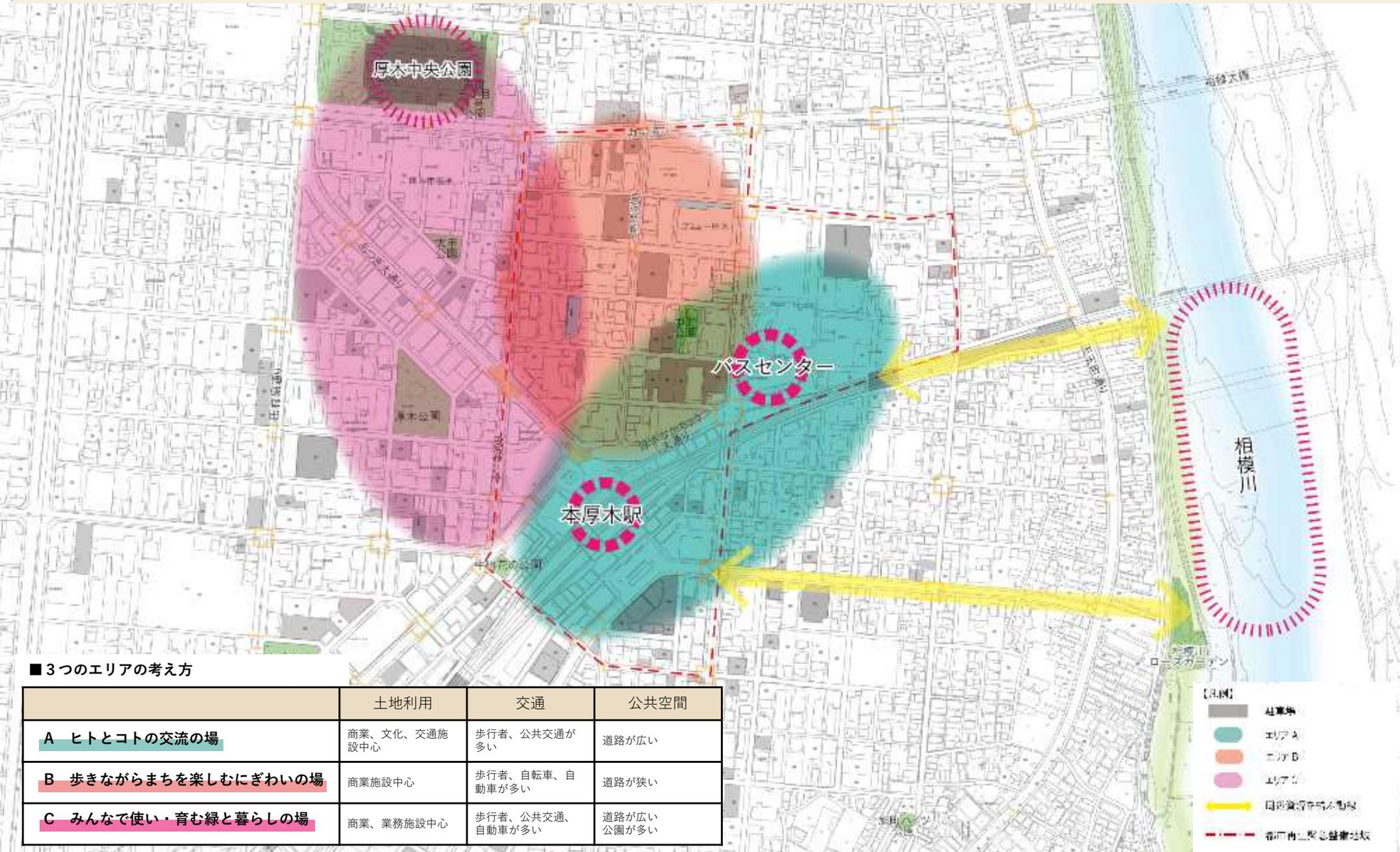
目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりの担い手となりうる民間事業者や住民の皆様等と行政が連携して、持続的にまちの魅力や価値を高める。



〈例〉市民によるまちづくりの支援  
(備品の貸出、利用窓口の整備等)

### 3 目指すまちの姿（案）

現在の土地利用の特徴、交通手段ごとの主要動線、公共空間の整備状況に着目し、“回遊の中心となる3つのエリア”と“まちと川をつなぐネットワーク”を設定



■ 3つのエリアの考え方

	土地利用	交通	公共空間
<b>A ヒトとコトの交流の場</b>	商業、文化、交通施設中心	歩行者、公共交通が多い	道路が広い
<b>B 歩きながらまちを楽しむにぎわいの場</b>	商業施設中心	歩行者、自転車、自動車が多い	道路が狭い
<b>C みんなで使い・育む緑と暮らしの場</b>	商業、業務施設中心	歩行者、公共交通、自動車が多い	道路が広い 公園が多い

- 【図例】
- 駐車場
  - エリアA
  - エリアB
  - エリアC
  - 回遊動線(徒歩・自転車)
  - 回遊ネットワーク